

統計アラカルト

県民の皆様には統計を身近に感じていただくためのページです。
随時、色々な統計に関する話題・データを紹介します。

熊本の統計情報
令和5年11月14日

統計データの「季節調整値」って、なに？

官公庁や民間などから公表される経済統計データの中には、季節変動を取り除いた「[季節調整値](#)」というものがあり、長期的な統計データから経済・景気の動きを把握することを目的とする場合に用いられています。



1 何故、季節調整されたデータが採用されているのか？

毎月公表される統計データは、年ごとで類似した動きを示したり、特殊な経済変動で動きが大きく変わったりします。

例えば、夏季や冬季といった季節による違いによって商品の売れ筋に違いが出る事や祝日、うるう年の関係で営業日数が異なるといった影響などにより、様々に変動するため、収集された原数値を時系列で直接比較することは、経済・景気の動向把握の観点からは不向きです。

そのため、何も手を加えない原数値から季節変動を取り除いた「季節調整値」を使う方が経済・景気の動向を見る場合には適しています。

2 季節変動の要因は？



それでは、季節変動はなぜみられるのかというと、世の中のモノの動きには天候や社会習慣等に起因する以下のような季節的な要因（季節要因）が含まれているためです。

(1) 自然条件

天候や気温などの自然条件は、経済活動に直接影響を与えます。例えば、清涼飲料水などは、夏に消費が増加するため、これに対応して生産量や売上高なども変動します。

(2) 暦の要因

月による日数や休日の違いによる影響です。例えば、年末年始、ゴールデンウィーク、お盆などの休日が続く月や2月などは他の月に比べて工場の稼働日数が少なく生産が減少したりします。

(3) 制度・習慣からの影響

7月、12月には、中元、歳暮の習慣があるほか、これらの月にはボーナスの支給も重なるため、消費が急増する傾向にあります。そして、これに対応して商品やサービスの生産・売上也増加します。



3 季節調整の方法は？

季節調整の方法には、いくつか種類があります。月別平均法、連環比率法、移動平均型調整法などがありますが、ここでは代表的な「12か月移動平均法」と「センサス局法(X-12-ARIMA)」をご紹介します。



(1) 12か月移動平均法

季節調整方法の中で多く用いられているのは、原系列の移動平均をとって季節性をならず移動平均型調整です。また、原系列に一定期間を周期とする変動が含まれている場合には、その周期に合わせた月数をとって移動平均すれば周期変動を取り除くことができます。

つまり、12か月を移動平均すれば、1年を周期とする季節変動が除去された系列を作成することができます。具体的には、該当月を中心に前後12か月間の和を12で除して算出した数値と同様に算出した隣り合う月の数値との平均値が季節調整値となります。

(2) センサス局法(X-12-ARIMA)

1997年にアメリカ商務省センサス局が、12か月移動平均を基礎として採用していたX-11(操業日数を標準日数に換算する調整)に、新たな機能(2曜日・祝祭日調整、うるう年調整)を付加したX-12-ARIMA(調整手法はより安定性に優れている。)として公開しました。以来、日本においても各種統計調査に適用されています。

【出典】

総務省統計局／なるほど統計学園／参考 統計エピソード集／季節的な動きを除去

https://www.stat.go.jp/naruhodo/15_episode/toukeigaku/kisetu.html

経済産業省／経済解析室 TOP／ひと言解説／季節調整とは何か？; 経済統計の周期性を考える

https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20211126hitokoto.html

とやま統計ワールド(富山県統計調査課)／統計指標のかんどころ／第1章 統計用語 7.季節調整

<https://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/kandokoro/>

熊本県の統計情報は

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/20/>」をご覧ください。

問合せ先: 熊本県企画振興部交通政策・統計局 統計調査課 総務資料班

〒862-8570 熊本市中央区水前寺 6-18-1

電話: 096-333-2174 / Fax: 096-384-7544

メール: toukeichousa@pref.kumamoto.lg.jp